

刈田町立図書館 新着推し本紹介のコーナー

8月の推し本



『くらべる時代』

おかべたかし // 著 東京書籍 請求記号 210.7/オ/ 資料番号 610114704

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00599688>

【紹介文】書名のとおり、「昭和と平成」をくらべる訳である。小難しく政治や経済のことをくらべる訳ではなく、身近にある生活のものを写真でくらべ、解説をしている。例えば「オムライス」。表紙の写真だが、ソースたっぷりの「オムライス」から、今は卵トロトロふわふわの「オムライス」。これもある理由で完成している。なかでも「天童木工×柳宗理」。天童木工製品はわが館の書架・机などに使用されており、「柳宗理」とのコラボで昭和から平成への技術の進歩が垣間見える。平成はこの前だったじゃん！と思うが、平成30年の時代の流れでスタイリッシュに変化された「もの」たちばかりである。

『ホハレ峠 ダムに沈んだ徳山村百年の軌跡』

大西 暢夫 // 写真・文 彩流社 請求記号 289/ヒ/ 資料番号 610115727

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00599888>

【紹介文】岐阜県揖斐郡旧徳山村から隣の坂内村・川上地区につながる峠、そこが「ホハレ峠」と呼ばれる。険しい山道を多くの人が、食料・木材などを背負ってかつてはここを歩いた。ダムに沈んだこの徳山村の最奥の集落に一人で暮らし続けた女性、廣瀬ゆきえさんの人生をたどる。

ゆきえさんの気持ちは「先祖の積み上げてきたものをすっかりごとわしらは、一代で食いつぶしてしまったという気持ちになってな。徳山村の価値は現金化され、後世に残せんようになったんや。」に集約される。続けていくのはたやすすくないのに、失う時はあつというま。最後の村民の話に耳を傾けたい。長い年月をここで過ごし、様々なものを見てきた彼女の生き様を追う。

『世界の国境を歩いてみたら...』

「世界の国境を歩いてみたら...」番組取材班 // 著 河出書房新社 請求記号 290.9/セ/ 資料番号 610114712

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00599689>

【紹介文】島国日本に住んでいると普段意識することはほとんどないであろう地続きの国境線。歩き続けると別の国に行けるということ。国境の向こうとこちら側でまったく違う社会が広がっているということ。ニュースで聞く国境の話は紛争や移民問題ばかりだが、国境周辺で暮らす人々にはその地域独自の文化もあり、たくましくおおらかに生きている。BS11で放送されていたオトナの本格「国境エンターテインメント」番組の書籍化で、実際に行ってみないとわからないことだらけの世界各地の国境事情がわかる一冊。

『1日のおわりにもふもふタイム』

松原 卓二 // 写真 文 大和書房 請求記号 480/マ/ 資料番号 610116014

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00599941>

【紹介文】デジタル大辞泉で「もふもふ」を調べてみると、動物の毛などが豊かで、やわらかいさわり心地であるさまのこと。2000年代後半頃から広まったとみられるインターネットスラング。と、書いてありました。

「ふわふわ」とも違うニュアンスを持つ「もふもふ」。この本に紹介されている動物たちは、もふもふ度もさることながら、そのポーズ・顔・形も秀逸で、写真を眺めていると自然に顔が緩みます。緊張をほぐしてくれるこの一冊、まず表紙の写真にノックダウンです。

『5G 次世代移動通信規格の可能性』

森川 博之 // 著 岩波書店 請求記号 547.5 / ㄟ / 資料番号 610116485

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00600099>

【紹介文】はじめて持った携帯電話は3Gでした。それから時が流れ今じゃスマホが当たり前。そして5Gの時代に突入。そもそも5Gになったら、何がどう変わるのだろうか？そんな疑問や不安をわかるやすく解説してくれている一冊。

ただ通信速度や容量が大きくなっただけじゃない、ドラえもんが存在する近未来に一步近づいてきているのかも？

『絵本のようにめくる世界遺産の物語』

村山 秀太郎 // 監修 本田 陽子 // 監修 昭文社 請求記号 709 / ㄟ / 資料番号 610115933

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00599933>

【紹介文】本を開いてまず目に入るのは美しい写真の数々。まるで物語に出てくるような幻想的な風景です。現在世界遺産登録数は1100件以上。本書では62の世界遺産を紹介しています。ピサの斜塔はそのうち倒れてしまうの？300年は倒れないと言われている。など解説付きで写真・文章どちらも楽しめる一冊です。新型コロナウイルスの流行により以前のように旅行に行けない現在。美しい写真を眺めながら本の中で世界遺産を旅してはどうでしょうか？

『科学ってなあに？ 身近にあふれる“なぜ？”が“そうか！”に』 (児童書・かがく)

ジェームズ ドイル // 著 河出書房新社 請求記号 404 / ト / 資料番号 620041905

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00599544>

【紹介文】ことしの夏休みは、わくわくどきどき、なぜなぜどうして？をおおきくして、みませんか？科学って難しい！って思う人がおおいのでは・・・でもこの本を読めばおもしろくなるかもしれません！身近な小さな？（はてな）から大きな？（はてな）までかんたんでわかりやすく教えてくれています。体ってあらわなきゃいけないの？からブラックホールに落ちたらどうなるの？と、はてなの幅が広いのです。面白いイラストや写真付きで読めば好奇心をくすぐられるはず！みんなの“どうして？”“なぜ？”が科学者になれる一歩かもしれませんよ。

『雨女とホームラン』 (児童書・ものがたり)

吉野 万理子 // 作 静山社 請求記号 913 / ㄟ / 資料番号 620042127

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00599668>

【紹介文】占いやゆうれい・雨女に雨男。目に見えないものを何かと信じてしまう小学6年生の子たち。路地にいた占いおばさんの占いを信じる野球少年。ゆうれいがみえるという友達の話に怖がる女子。雨女なんていないと思うのに周りの子に振り回される男子。雨女にされてしまう転校してきたばかりの女子。そんなクラスをまとめる担任の先生。でも、そんな先生にも子供の頃にある苦い経験があったのです。見えないものをちゃんと判断して信じるって大人になっても難しい。けれど、こんなこともあるんだって、子供の頃に少しでもわかっていれば将来少しは違うものになるのかもしれない。



問い合わせ先

苅田町立図書館 ☎093-436-0946

開館時間：9：30～17：30（木・金は19：00まで。本館のみ）

ホームページから蔵書検索もできます



(2020.8.5発行)